

かきのしまいせき

垣ノ島遺跡



▲WEB MAP

- 所** 函館市白尻町416-4(垣ノ島遺跡管理棟)
- Tel.** 0138-25-2030
(問合せは函館市縄文文化交流センター)
- 時** 9:00~17:00(11月~3月は16:00閉場)
- 休** 年末年始
- 料** 無料
- ガイド** 定時解説あり、団体は函館市縄文文化交流センターで要事前予約
- P** あり
- Taxi** 函館空港から40分、函館市内から約60分
- バス** 函館駅から函館バス[川汲経由鹿部行き]乗車90分、「垣ノ島遺跡下」下車、徒歩約5分

土器などが大量出土!

大量の土器や石器類がざくざく出土。使い終わった道具の上に繰り返し土を被せていったと考えられています。



見て、聴いて、体験もできる!

専門スタッフによる定時解説や発掘体験ができます。

問い合わせ先/函館市縄文文化交流センター **Tel.** 0138-25-2030

発掘体験

発掘調査の目的や方法を学びながら土器や石器を実際に掘り出すなど、一連の作業を体験できます。詳細は、お問い合わせください。

定時解説

竪穴建物跡や盛り土遺構など遺跡内の見どころを一緒に巡りながら説明します。

足形付土版

文様の施された粘土版に付けられているのは乳幼児の足形。成長の記録なのか、亡くなった子どもの形見なのか、はっきりしたことはわかっていませんが、かかと側に穴が開けられていることから、柱などにつるされていたと考えられています。足形付土版は長い縄文時代において出土例が少なく、一時期現れてすぐに消えた、はかない風習のようです。

垣ノ島遺跡の縄文時代早期後半のいくつかのお墓から合計17枚が出土。副葬品とみられています。



出典:JOMON ARCHIVES(函館市教育委員会撮影)

草創期 早期 前期 中期 後期 晩期

遺跡存続期間:約6000年

垣ノ島遺跡



出典:JOMON ARCHIVES
(縄文遺跡群世界遺産保存活用協議会撮影)



赤漆塗り注口土器
(垣ノ島遺跡)

長年の蓄積が生んだ漆の美

高さ12cmほどの急須(きゅうす)に似た注口土器(ちゅうこうどき)。縄文時代後期末のもので、黒漆の上に赤漆を二度塗りした職人技が光ります。



鮮やかな赤色が残る漆塗りの肩当て。漆を塗った糸を編み込んだもの。

世界最古の漆製品は函館にあります

隣の垣ノ島B遺跡の9000年前(縄文早期)のお墓から出土した世界最古の漆糸製品。赤漆を塗った糸で編まれた丁寧な造りの編布で、墓の主の肩や腕、脚などにつけられていたものでした。赤漆は土偶や儀礼具の塗料に使われる場合が多く、中空土偶にも使われています。

とにかく長い! 6000年間続いた縄文ムラです

この遺跡の大きな特徴は存続期間が長いこと。縄文早期から後期にかけての、実に6000年間という長期に渡り、地域の拠点となるムラが営まれました。ここでは大量の土器や石器などが土と一緒に積まれた盛り土遺構が出ており、使い終わった道具や食べ終わったものを自然界に返す「送り場」の可能性が指摘されています。